

TOME LETTER

登米だより



とめ
登米市を応援して下さる全国の皆さんへお届けします

返礼品事業者紹介

産地精米ササニシキ (有)PFTサービス 後藤 貴之さん

洋菓子 (有)ガトウ・タチバナ 橘 喜久男さん

油麩 熊本油麩店 熊本 栄さん

澤乃泉サイダー 石越醸造(株) 高橋 満行さん 宮内 康太郎さん

豚串 & 牛串 (有)肉の及川 及川 慎一さん

木工芸品 津山木工芸品事業(協) 高橋 勝也さん

寄附金活用事業紹介

ブックスタート事業 迫図書館

長沼フートピア公園管理事業 長沼フートピア公園

文化財保護支援事業 登米謡曲会

ビジネスチャンス支援事業 ローズヒップ栽培農家 名生 満範さん

東京オリンピック・パラリンピック事前合宿支援事業 東京オリンピック・パラリンピック推進室

市民参加の新たな森林づくり事業 農林振興課

希少価値の高い宮城の伝統米を 肥沃な登米の地で栽培

(有)PFTサービス

代表取締役 後藤 貴之さん

登米だより

1

返礼品事業者紹介

産地精米ササニシキ



1



2



3

PFTサービスは、登米市内に自社所有水田約23ha、受託水田約37haを持つ稲作専門の会社です。1995(平成7)年に農業生産法人として設立して以降、ササニシキの生産・販売に特化してきました。ササニシキといえば、かつてはコシヒカリと並び称されるおいしい米の代表格でしたが、栽培の難しさもあって近年は急速に減少。今では幻のお米になりつつあります。「それでも粘りが少なくあっさりとした食味のササニシキは、今なお根強いファンがいます。そうした方々の需要に応えるためにも、私たちはササニシキの栽培にこれからもこだわっていきたくと思っています」。代表取締役の後藤貴之さんはそう想いを語ります。

常に品質と生産性の向上を追求している同社では、今年度、過繁茂を抑えるための播種機の改造、生育ステージに合った肥料体系の整備を推進してきました。「令和3年産米も上々の出来です」と自信をのぞかせる後藤さん。「ぜひ全国みなさんに味わっていただき、登米市を“第二のふるさと”と思っていただけたらうれしいですね」と話していました。

1.「今後は海外への販路拡大も視野に入れていきます」と語る後藤さん。2.令和3年産米の稲刈りの様子。3.減農薬・減化学肥料で育てられた同社のササニシキ。返礼品の中でも高い人気を誇ります。

地元ならではの食材を使った 甘じょっぱい新菓子が話題

(有)ガトウ・タチバナ

代表 橘 喜久男さん

登米だより

2

返礼品事業者紹介

洋菓子



1



2



3

地域密着の洋菓子店として、40年近くにわたり親しまれているガトウ・タチバナ。店内のショーケースにはタルトやロールケーキなど、比較の日持ちのするおやつ菓子が並びます。「どの商品も、おいしいのはもちろんのこと、買いやすい価格で提供するのがモットーです」と代表の橘喜久男さんは胸を張ります。

なかでも一推しなのが、「森のまちチーズ」という焼き菓子。オーストラリア産チーズを使って低温で焼き上げた看板商品の「スティックチーズ」に、登米産の粒味噌を加えた一品です。NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」の放映に合わせ、「モネのゆかりの地・登米の食材を使って商品を作りたい」と試行錯誤を重ねて誕生しました。同じ発酵食品であるチーズと味噌は相性抜群。濃厚なチーズに味噌の塩味が絡み、深みのある味を醸し出しています。「震災復興への願いを込めて開発したシュークリーム、『福幸祝』と共に自信作です」と語る橘さん。「今後も期待に応えておいしいお菓子を作り続けたいですね」と締めくくってくれました。

1.「ふるさと納税を通して、地域外の人にも商品をお渡しできるのがうれしいですね」と橘さん。2.返礼品の「森のまちチーズ」。「福幸祝」とのセットもあり。包装紙は今後変更となる可能性があります。3.「福幸祝」は店内では8種類を販売。

3

返礼品事業者紹介

油麩

熊本油麩店

店主 熊本 栄さん

多彩な料理においしさ添える
登米伝統の素朴な郷土食材

ハイカラな洋風建築物や蔵造りの商家など、歴史的な建造物が数多く残り、“みやぎの明治村”と称される登米市登米町とよきまち。この地で明治時代から親しまれてきた郷土の伝統食材の一つが油麩です。油麩とは、小麦粉のタンパク質成分であるグルテンを植物油で揚げた揚げ麩のこと。今でもこの地方では家庭料理に欠かせない一品となっています。

市内には油麩の製造所が数ヶ所あり、そのうち最も古い歴史を持つのが、明治初期創業の熊本油麩店です。5代目店主の熊本栄さんは、「店舗奥の工場で、2～3日に1日のペースで1日1000本ほど製造しています。うちの場合は創業当時の配合を守り、時間をかけてじっくり揚げているので、風味豊かで色が濃いのが特徴です」と教えてくれました。材料も製法も素朴。それでいて、料理に使うとコクが出る油麩。「ヘルシーなのに食べ応えがあり、肉の代わりにもなる存在感も魅力です」と熊本さん。登米名物の油麩丼をはじめ、味噌汁、煮物、炒め物、うどんの具材としてなど、ぜひさまざまな料理で楽しんでみてはいかがでしょうか。

1.「登米にこんなにおいしい食材があることを、もっと多くの人に知ってほしいですね」と語る熊本さん。 2.登米観光の土産品としても人気です。 3.多彩な料理に活用できる使い勝手の良さが◎。



4

返礼品事業者紹介

澤乃泉サイダー

石越醸造(株)

常務取締役 高橋 満行さん

販売部 企画広報室 室長 宮内 康太郎さん

酒造りに適した環境の中
幅広い嗜好に応える商品を開発

石越酒造は昨年、創業100周年を迎えた老舗の酒蔵です。地元産の酒米と栗駒山系の伏流水で醸す酒造りを身上としており、代表銘柄の「澤乃泉」は地元で絶大な人気を誇ります。希少な宮城県産山田錦でお酒を造りたいという想いから開発した純米大吟醸「きらめきのしずく」をはじめ、常に新たな挑戦を続けているのも同社の強み。「日本酒の命である米と水に恵まれた登米は、高品質な酒造りに最適な環境です」と、常務取締役の高橋満行さんは語ります。

コロナ禍で日本酒の需要が落ち込む中、若い世代を取り込もうと、今年6月には澤乃泉の純米原酒をベースとしたリキュール「蟲惑魔(こわくま)」シリーズを新発売しました。企画広報室の宮内康太郎さんは、「甘くフルーティーな味わいと香り高い風味が特徴です。アルコールが苦手な方にもおすすめです」とPRします。その他、本格焼酎やサイダー、酒粕を使用した石鹸やハンドクリームなど、近年、清酒を軸にしたバラエティ豊かな商品を次々に開発している石越酒造。今後の展開にも大いに注目したいところです。

1.「飲み飽きないお酒を造り続けたいですね」と語るお二人。 2.純米酒の酒粕をパウダー化して配合した、返礼品の「澤乃泉サイダー」。 3.南部杜氏の技を受け継いだ丁寧な酒造りがモットー。



登米市産の牛や豚にこだわり 1本1本串打ちした逸品

(有)肉の及川

代表取締役 及川 慎一さん

登米より

5

返礼品事業者紹介

豚串 & 牛串



昭和30年代に開業し、長年、登米市迫町で精肉全般を取り扱ってきた肉の及川。5年前、2代目の及川慎一さんが体調を崩したのを機に店舗を閉鎖しました。現在は豚串や牛串といった串ものの精肉加工を専門に手がけ、主にホテルなどに商品を卸しています。「登米市は県内随一の肉用牛の産地です。うちにしかできないものを、と考え、登米市産の牛や豚を使った串ものの製造を始めました」と説明する及川さん。評判は上々で、畜産王国である北海道のホテルからも引き合いが来るほどだそうです。

今年からはふるさと納税への出品もスタート。豚串3種と牛肉ロール串をセットにして出品したところ、コロナ禍での家飲み需要ともマッチし、登米市の返礼品の中でも上位の人気商品となりました。「登米の肉の質の良さ、おいしさを全国の方々に知っていただけたのがうれしいですね」と及川さんは微笑みます。「近々、にんにくの芽を豚バラで巻いた串や豚カシラ串入りのセット、年末年始向けのごちそう商品も出品予定です」とのこと。ぜひチェックしてみてくださいね。

1.「ふるさと納税への出品は奥が深いです」と話す及川さん。 2.リピーターも多い返礼品の「登米産牛ロール串、豚串、豚肉大葉巻串、肉巻串のセット」。 3.1本1本丁寧に串打ちしています。

「おかえりモネ」効果で話題 矢羽模様が美しい工芸品たち

津山木工芸品事業(協)

木工職人 高橋 勝也さん

登米より

6

返礼品事業者紹介

木工芸品



町の面積の大半を植林した杉の山が占める登米市津山町。ここで育つ杉は色味も木目も品がよく、「津山杉」と呼ばれて建材などに重宝されてきました。そうした利点を生かし、津山町では津山杉を丹念に継ぎ合わせた「矢羽集成材」を使って作る木工芸品で町おこしを図ってきました。

津山木工芸品事業協同組合に所属する高橋勝也さんは、矢羽木工芸品作りに携わって30年以上のベテラン木工職人。「生活の中で使いやすい矢羽木工芸品」を心がけ、ティッシュボックスや小引き出し、ごみ箱などの箱ものを得意としています。なかでも今、注目を集めているのがお弁当箱。NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」で、主人公のモネが家族に贈ったシーンが放映されるやいなや、人気沸騰。現在は生産が追い付かない状態だと言います。「うれしい悲鳴ですね」と笑顔を見せる高橋さん。「津山の工芸品である美しい矢羽木工芸品を多くの人に使っていただくのが一番。そのために新しい商品の開発にもどんどん挑戦していきたいです」と今後の抱負を語ってくれました。

1.矢羽木工芸品に興味を惹かれ、家具職人から転身したという高橋さん。 2.矢羽模様の美しさが際立つ人気のお弁当箱。 3.矢羽集成材をカットする高橋さん。熟練の職人技が随所に光ります。

1

寄附金活用事業紹介

ブックスタート
事業

迫図書館

絵本を介して
親子の心ふれあう

本を通して親子が触れ合うきっかけになるよう、乳児健診（4～5か月児）の会場で絵本をプレゼントするブックスタート事業。健診会場で行うことで、より多くの赤ちゃんに渡すことができます。市民ボランティア、保健師、図書館など様々な分野の人たちが協力して実施しています。

今年からは5冊のうち好きな2冊の本を選んでもらい、手渡しています。昨年までは決まった2冊を渡していましたが、ふるさと応援寄附金のおかげで5冊のうちから選べるようになりました。受け取った方からは、「絵本が選べて嬉しい。上の子も一緒に読んでいます」などの声があります。この事業がきっかけで図書館に足を運んだり、読み聞かせ会に参加したりする方もいるとのこと。迫図書館の本間さんは「本を通して楽しい時間を共有し、親子間のコミュニケーションを深めるきっかけになれば嬉しいです。子どもにとって親に本を読んでもらった記憶はとてもいい思い出になると思うので、ぜひ気軽に触れ合い、これから先も本に親しんでくれたらいいですね」と語ってくれました。

1.本を選ぶ親子。1つ1つ絵本を開き内容をお話しています。 2.プレゼントされている絵本。5冊のうち好きな2冊が選べます。 3.絵本を手渡す本間さん。



2

寄附金活用事業紹介

長沼フートピア公園
管理事業

長沼フートピア公園

公園を美しく、
安全に保つために

オレンジ風車がシンボルの長沼フートピア公園。アスレチックや長さ111mの巨大なローラー滑り台、キャンプなどを楽しむことができ、休日は家族連れのお客様で賑わっています。ふるさと応援寄附金の一部を使い、公園を安心して利用してもらうための管理をする長沼ふるさと物産(株)の佐藤さんは、「皆さんが来てよかったと思っていただけるように公園管理をしています。きれいな公園を保つため、1年中できるだけ花を絶やさないように工夫しています」と教えてくれました。広々としてゆったりした公園で子供連れの方も安心して遊ぶことができ、キャンプ場から見る星空はとてもきれいで、自然を満喫できます。

「寄附金の存在は非常にありがたく、ふるさと、地域を盛り上げようという気持ちが大変励みになります」と佐藤さん。NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」にも登場した公園ですが10月12日からは、公園内の3施設でドラマの出演者等身大パネルやサイン色紙、小道具など多くの関連品を展示した「おかえりモネ展」を開催しています。ぜひお越しください。

1.広々としてゆったりできる長沼フートピア公園。 2.美しく安全な公園を管理する所長佐藤純さん(左)と代表取締役尾形忠藏さん(右) 3.おかえりモネ展は令和4年10月31日まで開催しています。



地域の伝統を守り受け継ぐ

とよま よう きょく かい 登米謡曲会

登米だより
3
寄附金活用事業紹介
文化財保護
支援事業



江戸時代から伝わる登米能の伝統継承活動を行っているのが明治41年に発足した登米謡曲会です。隈研吾氏が設計した伝統芸能伝承館「森舞台」で薪によって照らされる篝火の下で演じられる新能と、月に一度、4つの支部が集い稽古の成果を発表する謡の勉強を主な活動として行っています。地元住民だけで能を成り立たせているのが特徴で、東北地方においても貴重な存在になっています。

会長の太郎丸晃さんは、「舞台をみんなで創り上げる苦労と喜び、そして達成感があります。幽霊や怪獣のような世の中には存在しないものを演じることがあり、役を演じる楽しさが魅力です」と語ります。今後の目標について、「伝統ある登米能を守り続けるため、担い手・後継者を見つけていかなければなりません。現在、会員は38名で、能をするためには30人程度必要になるため、一人でも欠けると舞台の成立が難しい状況です」と継承への責任の大きさを感じています。皆様からの寄附金が登米能の伝承と振興に大切に役立てられています。

- 1.とよま秋まつりでの新能。登米能は宮城県無形民族文化財になっています。
- 2.「長年の伝統を守るため、体験会を開催し、興味を持ってくれる人が増えると嬉しいです」と語る登米謡曲会の太郎丸会長。
- 3.NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」にも登場した伝統芸能伝承館「森舞台」

地域の経済活性化を支援

ローズヒップ栽培農家 名生 満範さん

登米だより
4
寄附金活用事業紹介
ビジネスチャンス
支援事業



市内事業者が行う商品開発や販路拡大、起業・創業を支援し、活力ある地域づくりを推進するビジネスチャンス支援事業に寄附金の一部が活用されています。

登米市内でローズヒップ(バラの花が咲いた後の実)を栽培し、ローズヒップティーの販売を行う名生満範さんはこの事業を利用した一人です。ほのかな甘酸っぱさと華やかな香りが特徴のローズヒップティーを作るためには実を乾燥させる必要があり、令和2年度に乾燥機を導入しました。導入前は自然乾燥のため半年近くかかっていましたが、導入後は4日ほどで完了し、温度も一定に保てるため色がきれいに出るようになりました。作業効率が上がり、安定した生産が可能になったことから、令和3年度は販路拡大のためにリーフレットの作成を行いました。名生さんは今後の目標について「費用面の負担が大きいです、この事業がきっかけで乾燥機の導入とリーフレットを作成することができました。原料が国産のものは珍しく、登米市で作っているローズヒップティーがあることをより多くの人に知ってもらいたいです」と語ってくれました。

- 1.登米市産ローズヒップティー。乾燥した実から華やかな香りがします。
- 2.昨年度導入した乾燥機。
- 3.今年度作成したリーフレット。味の特徴や美味しい飲み方が記載されています。

東京オリンピック・
パラリンピック推進室国内最高峰のボート場で
ポーランドボートチームを受入

今年度7月から8月に開催された東京2020オリンピック・パラリンピックに出場したポーランドボートチームが持てる力を十分に発揮し活躍できるよう、事前合宿の受入支援を行いました。長沼ボート場を練習会場にオリンピックやパラリンピアン、スタッフを合わせて計39人が来市し、一般市民や中高ボート部員の応援をはじめ、市内小中学校児童生徒とオンラインによる交流を行い、応援メッセージをしたためた手作り金メダルや応援色紙を贈呈しました。

選手からは「長沼ボート場クラブハウスは新しくきれいで気持ちよく使うことができました。オンライン交流での子どもたちは可愛く、作ってもらった金メダルはとても励みとなりました」との声がありました。ポーランドはボート競技の強豪国であり、事前合宿の受入により本市のボート振興をはじめ、目の前でトップアスリートの漕ぎ姿を見て声援を送ることにより、子どもたちが夢や希望を創出する機会を作ることができました。皆様のご寄附が市民や子どもたちの夢や希望がふくらむ機会の創出に役立てられています。事前合宿受入を契機に、今後もポーランドとの友好的な交流が続くよう取り組んでいきたいと思ひます。

1.長沼ボート場で練習するパラ選手たち。 2.子どもたちからの手作り金メダルを受け取る選手たち。「フレンドリーで優しい登米市の皆さんに感謝しています」との声がありました。 3.会場護岸から応援する市民。



農林振興課

次代につなぐ森林づくり

登米市は総面積の約4割が森林という森のまちです。二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止するだけでなく、水をため込むダム役割や土砂災害防止といった私たちが生活していく中で重要な役割を担っている森林を次代へつないでいくため、市民の手でスギや広葉樹を植樹する事業を行っています。

今年度は「市民参加の新たな森林づくり春植樹祭」が5月に登米市津山町で開催され、小学校みどりの少年団や一般の参加者など約80人が参加し、コナラの苗木800本を植樹しました。参加者からは、「子どもの誕生や結婚等を記念して行う「わたしの記念植樹」は、植樹した木と子どもが、自然とともに成長していく姿を目で感じることができます」との声をいただきました。また、「山や森が自分たちの生活に必要な不可欠だということ学ぶ機会でもあり、地元豊かな自然環境があるということを改めて認識できる良い機会となりました」と森林の大切さを再認識する声もありました。ふるさと応援寄附金を活用し、森林整備や市民の手で森林を守り、育てる活動を行っています。

1.令和3年5月に行われた植樹祭。 2.親子で植樹する様子。くわで穴を掘り、緑豊かな森林に育つよう願いを込めながら一本一本丁寧に植樹しました。 3.入学などの記念を標柱にする「私の記念植樹」



登米市は

2021年度前期 NHK連続テレビ小説

「おかえりモネ」の 舞台になりました!

主演は俳優の清原果耶さんで、
「森の町」登米で青春を送るヒロインが
“天気予報”という「天気」とことん向き合う仕事を通じて
人々に幸せな「未来」を届けてゆく
希望の物語。



とめ 登米ってどんなまち?

NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」の舞台の1つで「森の町」と紹介されている登米市。移住先は「ほど良い田舎」が人気ですが、登米市はまさにそんなところ。生活する上で必要な都市機能を備えながらも、身近に美しい自然が広がり、それを生かした遊びもたくさんある。住んでいる人には当たり前のことですが、興味が湧いたら、まずは遊びに来てください。



長沼はすまつり



長沼ポート場



1 登米市は宮城県の北東部にあります

北部は岩手県に、西部は栗原市と大崎市に、南部は石巻市と涌谷町に、東部は気仙沼市と南三陸町に接しており、海のもの、山のもの、里のものに恵まれた土地です。

2 登米市は水の里です

西部は丘陵地帯、東部は山間地帯で、その間に広大で平坦、肥沃な登米耕土が広がる、県内有数の穀倉地帯です。

また、北西部には毎年多くの白鳥やガンが飛来する、ラムサール条約登録湿地の伊豆沼・内沼をはじめ、長沼や平筒沼があり、まさに「水の里」に相應しい景勝地が数多くあり、市民にも親しまれています。

3 登米市は住み良い気候です

気候は内陸性気候で、2020年平均気温は12.4℃、年間降水量は981mm、冬の降雨量は少なく、降雪期間も比較的短く、東北地方では住みよい気候となっています。

登米市のデータ (県内35市町村中順位)

- 面積 ……536.12km² (第5位)
- 年間観光客数 ……3,471,193人 (第4位)
- 人口 ……77,959人 (第5位)
- 保育所数 ……15ヶ所 (第5位)
- 農業経営体数 ……6,348経営体 (第1位)
- 農業産出額 ……333.4億円 (第1位)

「登米市統計書(令和2年度版)」より抜粋

【お問い合わせ】

登米市まちづくり推進部観光シティプロモーション課

〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字中江二丁目6番地1

TEL 0220-23-7331 FAX 0220-22-9164

<http://www.city.tome.miyagi.jp> E-MAIL tome-life@city.tome.miyagi.jp

発行日/令和3年11月



宮城県登米市



登米市シティプロモーション
ロゴマーク



登米市ホームページ